

保健目標		4～5月	6月	7～8月	9～12月	1～2月	3月	
保健目標		・新しい環境に慣れ安定して過ごす ・生活リズムを整える	・歯を大切にすること ・暑い時期を健康に過ごす ・梅雨の時期を健康に過ごす	・生活リズムを整える ・目を大切にすること	・寒い時期を健康に過ごす ・冬の感染症を予防する	・進級、進学に向け生活リズムを整える		
保健行事		・身体測定（月1回） ・歯科健診（年2回）	・内科健診（年2回） ・職員健康診断（年1回）	・尿検査（3歳児以上） ・職員検便（月1回）	・乳児健診（月1回）	・入所前の健診 園児の健康状況、医療的配慮 予防接種、アレルギーなど。		
保健活動	通年的に実施	年度当初は特に全職員で情報を共有し取り組む ・児童の健康状態、発育発達の把握 ・予防接種状況の把握と推奨・健康（母子）手帳の確認 ・アレルギー児童の把握（食物アレルギー、アトピー、喘息等） ・医療的配慮を必要とする児童の把握 ・睡眠時の観察（睡眠時の事故予防）			・発達段階に応じた健康安全衛生管理 ・発育発達の把握 ・安全対策、所内外の安全点検管理 ・感染症予防対策（保育所における感染症対策ガイドライン：厚生労働省・保育所における感染症マニュアル参照） ・保育所サーベイランスの活用 ・感染症集団発生時の状況把握と対応（福島市幼稚園・保育課等との連携） ・室内の環境調整（清掃と玩具の消毒、室温、湿度、換気、空調管理等） ・頭髮の観察（アタマジラミの早期発見、予防） ・薬の取り扱い（管理、確認、誤薬防止等） ・事故防止と対策・緊急時対応確認（救命処置、心肺蘇生） ・応急手当（緊急時・ケガの対応） ・虐待予防、早期発見 ・害虫による被害対策（毛虫、ハチなどの害虫駆除、虫除け虫刺され対策） ・防災対策、災害への備えと避難訓練等 ・各種健診・測定の前準備、対応、事後処理（受診勧奨） ・各種記録表の確認、作成 （健康観察表、身体測定表、予防接種、感染症罹患状況表、睡眠時観察表、健診結果、アレルギー一覧表、薬連絡票等）			
	季節的に実施	・預かり初期の健康状態と睡眠状況の観察と事故防止対策 ・紫外線、PM2.5、花粉等の大気汚染環境の対応調整	・熱中症対策（暑さ指数） ・紫外線対策 ・食中毒予防 ・プール、水遊びの安全衛生管理と事故防止点検 ・紫外線、PM2.5、花粉症等大気汚染環境等の対応確認 ・夏祭り等の取り組みにおける安全管理及び健康管理	・運動会、発表会等の取り組みにおける安全管理及び健康管理 ・紫外線、PM2.5、花粉症等大気汚染環境等の対応確認	・紫外線、PM2.5、花粉症等大気汚染環境等の対応確認 ・卒園式等の取り組みにおける安全管理及び健康管理			
職員研修		・緊急時対応シュミレーションの実施（心肺蘇生、食物アレルギー・アナフィラキシーショック対応、熱性痙攣、誤飲事故、睡眠時の事故、プール活動中の事故等） ・感染症予防対策 ・避難訓練等						
保健指導		・手洗い、うがい ・生活リズム ・保育所での安全（生活や遊びのルール）	・歯の大切さ ・歯の衛生（歯磨き） ・夏の過ごし方 ・衣服の調整	・ケガの対応 ・目の話 ・衣服の調整	・手洗い ・うがい ・咳エチケット ・就学前に向けて（生活リズム等）			
保護者支援（おたよりを含む）		・生活リズム・健康管理 ・各種感染症 ・意見書、薬連絡票の取り扱い ・予防接種状況 ・各種健診、測定後の受診勧奨	・夏の感染症 ・紫外線、熱中症の予防等 ・プール水遊びの衛生管理配慮事項	・衣服の調整 ・冬の感染症 ・目の大切さ	・冬の感染症（インフルエンザ、感染性腸炎など）			
年齢別・クラス別 配慮	0歳児	・個々の健康状態を把握し、発達を把握し環境の変化に注意する ・衛生的で安全な生活環境を作る ・SIDS発生予防の為、睡眠状況を観察する（預かり初期期間はより強化する）	・快適に過ごせるよう、水分や休息を適切にとり体調を整える ・清潔に過ごし、皮膚トラブルに注意する	・個々の体力に応じ戸外活動を行う ・気温の変化に応じ衣服調整を行う	・感染症や風邪からの合併症の予防に努める			
	1～2歳児	・健康面、衛生面に配慮しながら安心して過ごす ・環境を整え、ケガや事故（転倒や嘔みつき等）を予防する	・気温変化に応じ衣服調整、空調調整を行う（1～2歳児） ・安全に水遊びが楽しめるよう個々の健康状態を確認する（3～5歳児）	・乾燥による皮膚トラブルを予防する ・気温や運動量、体調に応じた衣服調整や薄着の習慣が身につくよう働きかける	・健康、快適に過ごせるよう、環境調整を行う ・0～5歳児 風邪を予防する行動が自分から行えるよう働きかける			
	3～5歳児	・自分の体や健康に関心を持ち、健康安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう働きかける ・健康的に体作りができるよう、積極的に戸外で体を動かす	・安全にプール遊びが楽しめるよう個々の健康状態を確認する	・ケガや危険時の対処方法が身につく				